

現代中国における宗教と世俗の調整と再構築

中国広東省梅州市「香花派」におけるスティグマ現象の事例から

ケイ光大（慶應義塾大学大学院）

中国では、1978年に改革開放政策が施行されて以降、宗教が民俗文化として再評価され、徐々に復活、活発化してきた。ウェルラーは中国宗教をもつ世俗性を強調し、政策による宗教カテゴリーと民間宗教の間にズレと張力が常に存在すると指摘したが、[Weller 2015]、2000年代以降、状況が変化した。ポスト改革開放時期に入った中国においては、政府と宗教の関係は旧来の葛藤から、協力、相互利用などの多様な側面が見られるようになった[川口・瀬川(編)2013 他]。観光化、市場化、政治資本化などにより、宗教がより多様な領域に巻き込まれる現在、宗教の輪郭はさらに曖昧化している。また、この背景のもとに、同一の宗教においても、その内部にも多様な対立と闘争が存在している。本稿で取りあげた「香花派」は、まさしく内部と外部のカオスに翻弄されている。ゆえに、変化の激しい現代中国の宗教に対して、宗教と世俗領域の再配置・構造関係、またはそれに至るプロセスを考察することが必要と考えられる。本発表では、広東省梅州市「香花派」のスティグマ現象に関する一連の出来事をもとにそれを議論していく。

梅州市は、世界各地に移住した客家人の故郷であるとの自認から、「世界客都」という別称をもつ。「香花」は梅州客家の独自の仏教宗派であり、地元の多くの寺廟は「香花派」に属する。「香花」思想の中核は、儒・釈（仏）・道を融合すること、いわゆる「三教合一」である。香花派の僧侶たちの戒律と宗教的実践は、主流としての「叢林仏教」から外れ、また政策に規定された仏教のイメージに合わないため、長い間「香花」は仏教界や政府などによって偽仏教と見做され、弾圧された。

だが、2005年以降、その状況は変化した。スティグマ化された「香花」の名をただすため、公務員であり学者である地方知識人の李氏は、『梅州客家「香花」研究』という学術書を出版した。李氏の呼びかけのもとに、政府、仏教界と学術界は「香花文化」を客家の、とりわけ梅州客家の独自の仏教文化として認めるようになったため、香花文化の再構築が始められた。学術界において、「香花」に関する研究が流行し、各地の学者が梅州に集まって調査を行った。「香花文化研討会」が行われ、「梅州市客家香花文化研究会」という専門の学術組織も設けられた。芸術界においては、芸術専門の学者と政府が、「香花」の宗教的実践の中から芸術的な部分を選択し、文化財に登録した。僧侶たちの宗教儀礼は、スタンフォード大学の音楽祭など

で上演された。さらに、地元の香花僧は「香花画」という独自の宗教画を創作している。「香花」の文化的価値を意識した梅州市政府は、香花僧を対象とした学習会を開催し、そこでは政府の職員、「香花」と「叢林」の権威者が教師を務めて、中国の宗教の政策、および主流（正統）の仏教知識を香花僧たちに教えた。これらによって「香花」は正式に仏教界に組み入れられた。

社会への浸透を通じて、スティグマ化された「香花」は脱スティグマ化し、最終に宗教的、政治的な正統性を得た。一見して「香花」はようやく開花したに見える。だが、「香花」に関わる一連の現象に対し、「香花派」の内部にも多くの声が存在している。研究者らの研究を部分的に認めないとか、「香花芸術」というものはそもそも香花の内容ではないとか、「叢林」に差別される現象は依然として変わらないなどである。他方、外部の人たちは、「香花仏教」より「香花文化」の方に関心を寄せて、宗教領域としての「香花」を看過したと考えられる。

「香花」の事例は、現代中国の宗教・世俗領域の再配置と構造を提示することが可能である。「香花」の事例から分かるのは、政府は合理化（rationalization）、均一化の教育を通じて、主流に外れた「香花」を政治的に認めた宗教カテゴリーに入れることを推し進めてきた。いわゆる政策的な宗教化（politically religionization）である。だが、それは政府が宗教に自律性を付与することを意味せず、逆に宗教を世俗領域に服従させるために必要な脱迷信化の手段と判断できる。「香花」はむしろ、宗教としてではなく、学術資源、パフォーマンス、あるいは文化的ブランドとして社会に取り込まれている。ゆえに、宗教性は世俗領域に抑えられ、表象化されなかった。しかし、それは決して宗教性の喪失とは言えない。水面下では、寺廟で行われる身体的経験、つまり身体性（embodiment）が重視され、現世利益を目的とした宗教実践から、世俗と宗教を横断する領域が現れている。本発表では、政府により脱魔術化を促され宗教化された香花派が、「宗教性」と分離された部分で「文化」として利活用されながら、他方で、呪術性、身体性を帯びた「宗教性」を維持していることを明らかにする。

【参考文献】

- 川口幸大・瀬川昌久（編）2013『現代中国の宗教—信仰と社会をめぐる民族誌』昭和堂 2013
- Robert P Weller. 2015. "Global Religious Changes And Civil Life In Two Chinese Societies: A Comparison Of Jiangsu And Taiwan." *Review Of Faith & International Affairs*, Volume 13, Issue 2, 13-24.

キーワード：世俗化、仏教、香花派、客家文化、スティグマ